

コミュニティ・プラットフォーム事例集

(令和4年度持続可能な地域コミュニティ構築支援事業)



目次

- ・大川内地区コミュニティ協議会（出水市）
- ・牛尾校区コミュニティ協議会（伊佐市）
- ・れいめい羽島協議会（いちき串木野市）
- ・美里吾平コミュニティ協議会（鹿屋市）
- ・北山校区コミュニティ協議会（始良市）
- ・笠沙地区振興協議会元気づくり委員会（南さつま市）
- ・中割地区再生促進協議会（西之表市）
- ・阿室校区活性化対策委員会（宇検村）

取材後記

What's COMMUNITY PLATFORM

コミュニティ・プラットフォーム（コミプラ）とは、主に小学校区や中学校区などの範囲において、自治会、NPO、企業、青年団、老人クラブ、子ども会など多様な主体が連携・協力して、地域の課題解決等に自主的・持続的に取り組んでいくための基盤となる組織のことで（市町村によって名称や体制は異なります）。

県では、共生・協働の地域社会づくりを実現する仕組みとして、コミュニティ・プラットフォームの整備を促進しています。

この事例集は、鹿児島大学法文学部法経社会学科地域社会コースの片野田ゼミ（自治体政策論）所属の大学生が中心となって、取材・執筆・編集を行いました。

自然と人が交わる地域



令和5年1月1日時点



正現の棚田

地区概要

出水市の北東に位置し、北は熊本県水俣市、東は伊佐市と隣接している山間部である。地区の大半が森林であり、米ノ津川上流、高川ダムを有している。15自治会で構成され、自治会への加入率は89.2%となっている。

コミプラ設立の経緯

15自治会の代表が月に1回集まる定例会で地域活性化についての話し合いを行い、将来の

各自治会の地域活性を考えていく中で、自治会の合併を考えたが、断念した。しかし、里山再活性化プロジェクトや地域づくり研修会を通して、住民たちが地域を改めて見直す機会が増えたことで、自治会と多様な主体が連携したコミュニティ協議会の設立案が挙がった。住民一体となって準備委員会が協議を重ね、H29年に大川内地区コミュニティ協議会を設立した。

特徴的な活動

①自然の恵みを活かした活動

毎月第4火曜日に「茶いっぺ市場」が開催され、住民たちが持ち寄ったお米、タケノコや春キャベツ、大根などの季節の野菜、絵菜、工芸品や豚みそなどの地区の特産品の販売を実施している。

中でも、ブランド米として認知されている「大川内の清流棚田米」は、生産から販売まで地区が行い、ふるさと納税の返礼品にもなっている。また、「正現地区棚田保全会」を中心に環境保全活動、田んぼや川の生き物調査や、地区の子どもたちが種まきから精米までを体験する農業体験学習を実施している。収穫されたお米は、秋の「大川内ふるさと収穫祭」にて他の商品と共に販売されている。

これらの取り組みは、幅広い年代の地域住民の交流の場になっていると同時に収益を上げている。



大川内ふるさと収穫祭

②「つながる場」で生きがいや楽しみを創出

登録している人が定期的集まるサロン活動を行っている。主な活動は、ドライブサロン（買い物バス）、サロン会（手芸・工作）、体操教室である。この活動は高齢者元気度アップ・ポイント事業の一環としても登録しているため、65歳以上の登録者は活動に参加するとポイントが付与される。

ドライブサロンは、車を持っていない高齢者のために、市内の社会福祉法人の協力により、車や添乗員を確保して市街地のスーパーへの買い物を支援している。

サロン会では、簡単な手芸や工作などを行っている。体操教室では、繋がりがある米ノ津東地区コミュニティ協議会健康福祉部の体操を取り入れ、筋力の向上を意識した体操を続けている。

これらの活動や活動後の交流が地域住民の楽しみ・生きがいに繋がっている。



サロン会（工作教室）

今後の展望（コミプラの声）

空き家対策を積極的に進めており、空き家バンクを活用しての移住促進に取り組んでいる最中である。短期移住体験としての空き家活用も検討中であり、旅行業法等の法的手続きをどうクリアするかを考えながら、構想を固めている。

出水市から一言

高齢化が進んでいる現状ではありますが、地域全体が自主的・積極的に行動しているという点が魅力的であり、活動が収益に繋がっている点も強みであると感じています。

人と話す機会を作り出すことにより交流が生まれており、このような場を作ってくださいることがありがたいです。交流の場を作るといふ点を他の地区にもおすすめしたいと考えています。

利用した補助金など

- ・地方創生推進交付金（内閣府）（H29～30年度）
- ・地域振興推進事業（県）（R元年度）
- ・出水市地区コミュニティ協議会育成支援事業補助金（市）
- ・里山活性化事業補助金（市）（H29～30年度）
- ・コミュニティ助成事業（一般財団法人自治総合センター）（R2年度）



おいでよ！大川内
Izumi Kagoshima
(Facebook)



大川内地区
コミュニティ協議会

Passion

自然や人とつながる
交流の場をつくるべし！

地域一丸、繋げ・広げる「幸せ」の輪



鹿児島大学の学生と高隈山の清掃

地区概要

伊佐市の北部にあり、熊本県人吉市へ向かう国道267号の山手側に位置する。中央にある高熊山を取り囲むように、田園地帯が広がる自然豊かな校区（10自治会で構成）。

コミプラ設立の経緯

平成19年に校区公民活動推進委員会をその前身として設立。「地域づくり・地域活性化部会」「スポーツ・レクリエーション部会」「高齢者・子育て支援部会」の3つの部会を置き、それぞれの部会から選出された委員で構成する運営委員会を中心に活動している。

特徴的な活動

①牛尾っ子を地域で見守る

平成25年に、牛尾小の子どもへの声掛け事業があったことから、同年に牛尾っ子見守り隊を設立した。雨の日も、風の日も、学校がある時は毎朝、高齢者を中心に15人程で活動している。

牛尾っ子見守り隊の活動は、立立ちで登校を見守るのではなく、集団登校を一緒に行うところが特徴的だ。こうすることで、防犯になることはもちろん、子どもたちと高齢者とのつながりが生まれ、歩くきっかけが生まれて高齢者の介護予防にもなったりするという効果がある。

また、毎週水曜日には総勢20名程度で活動している「牛尾っ子パトロール隊」という青パトでの活動も同時に行われており、地域で子どもを見守る環境が整っている。

これらの活動が評価され、令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞した。



牛尾っ子見守り隊

②水曜日は「幸」齢者の日！笑顔をつくる高齢者講座

牛尾校区では、毎週水曜日を「幸齢者の日」とし、協議会が市から指定管理を受けて管理している「大口温泉高熊荘」を拠点に、高齢者を対象とした講座を開催している。ダンベル体操を中心とした「たかくま健康教室」、学びの場を提供する「たかくま幸齢者大学」、テキストを使用した「たかくま脳トレ教室」等、週毎に様々な介護予防事業を実施している。校区外からの参加も可能なため、周りの校区からも参加。終わった後の茶話会を楽しみにしている方も多く、笑顔で活動する“幸齢者”の賑やかな声が響き渡っている。



幸齢者講座

今後の展望（コミプラの声）

今後行いたい事業は2つある。

1つ目は、独居高齢者の交流事業。牛尾地区も他地域と同様、高齢者の引きこもりが一定数いるということがわかっている。現在は独居なのか、親子同居なのかなどのデータを集めているところ。データが集まり次第、集落ごとにある自治会館を月に一度回り、引きこもりがちな高齢者に地域に出てきてもらえるような活動をしたと考えている。

2つ目は、御用聞き事業。特に、買い物支援を行いたいと考えている。地域で助け合いが行えるような環境を作っていきたい。

伊佐市から一言

牛尾校区コミュニティ協議会は設立以来、地域住民や関係団体等と一体となって、地域活性化に向けた取組を積極的に行っています。令和3年度には鹿児島工業高等専門学校と一緒に校区の自治会や地域資源を紹介した「牛尾校区まるわかりBOOK」を作成しました。また、令和4年度には鹿児島大学と共同でコミュニティや自治会の活性化に関する研究を行っています。行政も引き続きコミュニティ協議会と連携しながら、住民が安心して暮らせるまちづくりを行っていきたくと考えます。

利用した補助金など

- ・伊佐市コミュニティ協議会補助金（市）（H29～R元年度、R3年度）
- ・協働の仕組みづくり促進事業補助金（市）（H21年度～）
- ・コミュニティ助成事業（一般財団法人自治総合センター）（H27年度）



牛尾校区
コミュニティ協議会
(Facebook)

Passion

住民に地域に 出てきてもらう工夫をすべし！

れいめい羽島協議会（いちき串木野市）

「つながり」から地域課題を解決！～黎明の地～



薩摩藩英国留学生記念館

地区概要

市街地の北西約9km、車で15分の場所に位置し、歴史や史跡を数多く有する地区。漁業と農業が同居する生活形態が多い。薩摩藩英国留学生在が慶応元年に英国に向け出航した「黎明の地」である。薩摩藩英国留学生記念館の開館により、交流人口を増やすために、観光振興にも力を入れている。

コミプラ設立の経緯

きっかけは、少子高齢化や、地域の小学校の閉校（H22.3土川小）を契機に、地域課題及び地域活性化に協働して取り組む必要性が生じたこと。市のまちづくり協議会設置補助や自治基本条例制定などの動きを受けて、コミプラ設置

の検討が始まり、地域の話し合い活動を経て設立に至った。

コミプラ設立前は、各公民館長や小中学校の校長、PTA、駐在所で組織された団体があり、年に2～3回、審議委員会という場で意見交換をするなど活動を行っていたことから、団体のベースや世代間のつながりがあったため、設立準備はスムーズに進んだ。8つの専門部会（自治部会・婦人部会・青少年育成部会・保健体育部会・健康福祉部会・観光部会・総務企画部会・自動車部会）を設けて、それぞれの部会で活動を実施している。

令和4年度には「第3期羽島地区まちづくり計画」を策定した。

特徴的な活動

①「どらっ！一緒に行こかい」羽島フレンドカー

市街地から離れている羽島地域において、移動手段を持たない高齢者を助ける取組。週に3回程度、協議会の自動車部会によって行われており、予約制である。主に病院、買い物、健康体操への送迎のほか、地域行事への参加にも利用されている。利用者の人数は30名ほどで、運転手は現在5名。利用している車は、市から貸与を受けている。利用料金はガソリン代実費程度。

公共交通機関の運行数の減少による地域住民の移動難を解消しているとともに、地域住民同士のつながりをつくりだしている。利用実績も年々増えており、R4年度は400人を超える勢いとなっている。



フレンドカーでの送迎

②一歩踏み込む！積極的な空き家対策

市や地域住民からの情報を基に空き家を把握し、地区への移住希望者を対象に空き家の紹介を行っている。単に空き家への移住あっせんだけでなくとどまらず、空き家に放置された不用品の廃棄可否や、廃棄作業をする人への当日について家主と協議する等、一歩踏み込んだ空き家対策を行っており、廃棄や清掃作業は、青壮年部や婦人部等が協力し実施している。

また、羽島地区にはお試しハウスがあり、移住前に一定期間住むことによって移住後の生活を想像することができる。

本事業により、スピード感のある移住が可能となり、現在までに10戸（大人12人、子ども6人）が移住。羽島に新たな人を呼び込み、活気を持たせている活動となっている。



移住お試しハウス

今後の展望（コミプラの声）

フレンドカーが、現在一番地域住民に喜ばれている事業であり、利用も急速に伸びているが、運転手の確保に加え、特に病院受診については拘束時間が長いため、運転手の負担となっている面がある。事業継続のためにも、今後、運転手の負担の軽減を図れるような工夫を検討していかなければならないと考えている。

いちき串木野市から一言

フレンドカー、空き家対策などは、今後の人口減少社会において地域コミュニティ維持のために重要な役割を担うものであり、また真に地元から必要とされている事業と考えています。市としては、羽島地区の取り組みを市内の各地域に広げていくことで、今後の人口減少社会においても、地域の活性化、共生・協働のまちづくりの推進につなげたいと考えています。

利用した補助金など

- ・地区まちづくり協議会運営補助金（市）（H24年度～）
- ・地区まちづくり計画事業補助金（ソフト事業・ハード事業）（市）（H24年度～）



れいめい羽島協議会

PASSION

空き家対策も工夫次第で 一歩踏み込める！

地域の魅力を活かして広がる「つながりの輪」



吾平山陵公園の桜

地区概要

鹿屋市の南部に位置し、神武天皇の父母が眠る「吾平山上陵」がある由緒ある、歴史を有する地域で、10町内会から構成される。農業従事者が多く、鹿屋市中心部に通勤する人も多い。

コミプラ設立の経緯

旧吾平町が鹿屋市と合併し、将来的には旧役場である吾平総合支所が縮小され地域が衰退することが懸念されていたこと、また鹿屋市から

「地域コミュニティ協議会モデル地区」に指定されたことをきっかけに、地域での話し合い活動を行い、平成24年に「吾平地域活性化推進計画」を策定、平成26年に美里（うましさと）吾平コミュニティ協議会を設立した。

協議会では、関係団体の代表による地域づくり部会とくらし部会の2つの専門部会を設けており、それぞれの部会で活動を実施している。また、地域づくりに意欲的なメンバーによる4つのプロジェクトチームがあり、部会を超えた横断的な活動を行っている。

特徴的な活動

①吾平山上陵にまつわる神話「吾平物語」で地域おこし

令和3年度に作成した、吾平山上陵にまつわる神話をまとめた「吾平物語」を地域活性化の基盤として活動を行っている。

まずは地元で「吾平物語」を広めるための講話を地元の中学校の「地域とつながる授業」の中で行い、受講した子どもたちは吾平山上陵にまつわる神話や歴史に触れて、地元の魅力を再認識することができた。

また、たくさんの経験をしてきた高齢者に自身の地元について再度学び直す機会を提供する「高齢者大学」でも講話を行い、高齢者への生きがいづくりにも繋がっている。地元の魅力を再度発見し、共通理解を深めることで、住民によるまちづくり活動への意欲的な参加や、地域外の人を吾平へ呼び込む取り組みを進めている。



吾平神楽 吾平物語

②誰かと繋がるための場所 コミスポ吾平

「行けば明かりがついて誰かがいる場所」が吾平にはある。「美里吾平コミュニティふれあい交流スポット」通称「コミスポ吾平」だ。施設内には、毎週火・木曜日に地域の絆を深め関係を広げるための「茶のん家」を開設、「100円カフェ」「おもちゃ病院」「そば打ち体験会」「バザー」などのイベントを開催している。年齢を問わず誰もが楽しみながら他者と交流をすることができる。

また、吾平での生活を体験できる移住体験住宅「吾楽暮（あいらいく）」が隣接しており、1泊2日で4000円、以後2000円の加算で利用が可能。コミスポ吾平の隣にあるため、地元の人々も声をかけやすく、来訪者もその輪に入りやすい雰囲気づくりがなされている。

茶のん家の利用者同士のつながりが強まると同時に吾平を訪れた地域外の人々もそれに加わることで、活性化の促進と吾平を通じたつながりが吾平の外にも広がっていくことが期待されている。



コミスポあいらの雛人形

今後の展望（コミプラの声）

今後、地域の子どもたちを巻き込んで地域づくり活動を行いたいと考えている。子どもたちにはふるさと吾平に誇りと愛着を持ってもらい、将来の吾平への定住や地域のリーダーとして活躍してもらうことを願っている。

地域活性化について子どもと大人と一緒に考えていき、地域全体で吾平を盛り上げていきたい。具体的には、取組みなど一緒に考えていき、当日のスタッフとしても活躍してもらい、活性化の一躍を担っていることを実感してもらいたい。また、吾平にまつわる神話を地域づくりに生かすことと作成した「吾平物語」を中心にムード作りをしていきたいと考えている。

鹿屋市から一言

美里吾平コミュニティ協議会が活性化の基盤とするため令和3年度に「吾平物語」を作成しました。これは地域外への吾平の情報発信やPRが主な目的でしたが、それ以前に地域住民が自分たちの住む町のことを知り、その魅力や素晴らしさの再認識につながったのほども素晴らしいことだと思います。

また、少子高齢化と人口減少が進んでいくなか、今後の展望として挙げている子どもたちとの地域づくりへの取組みは、将来の地域リーダーの育成や持続的・地域活性化につながるものと期待し、行政も一緒になって盛り上げていきたいと思っています。

利用した補助金など

・過疎地域等自立活性化推進交付金（総務省）(H26年度)



美里吾平
コミュニティ協議会
Facebook



美里吾平
コミュニティ協議会
（ぐるっと大隅）

Passion

地域の歴史も地域資源として活用すべし！